

鹿大広報

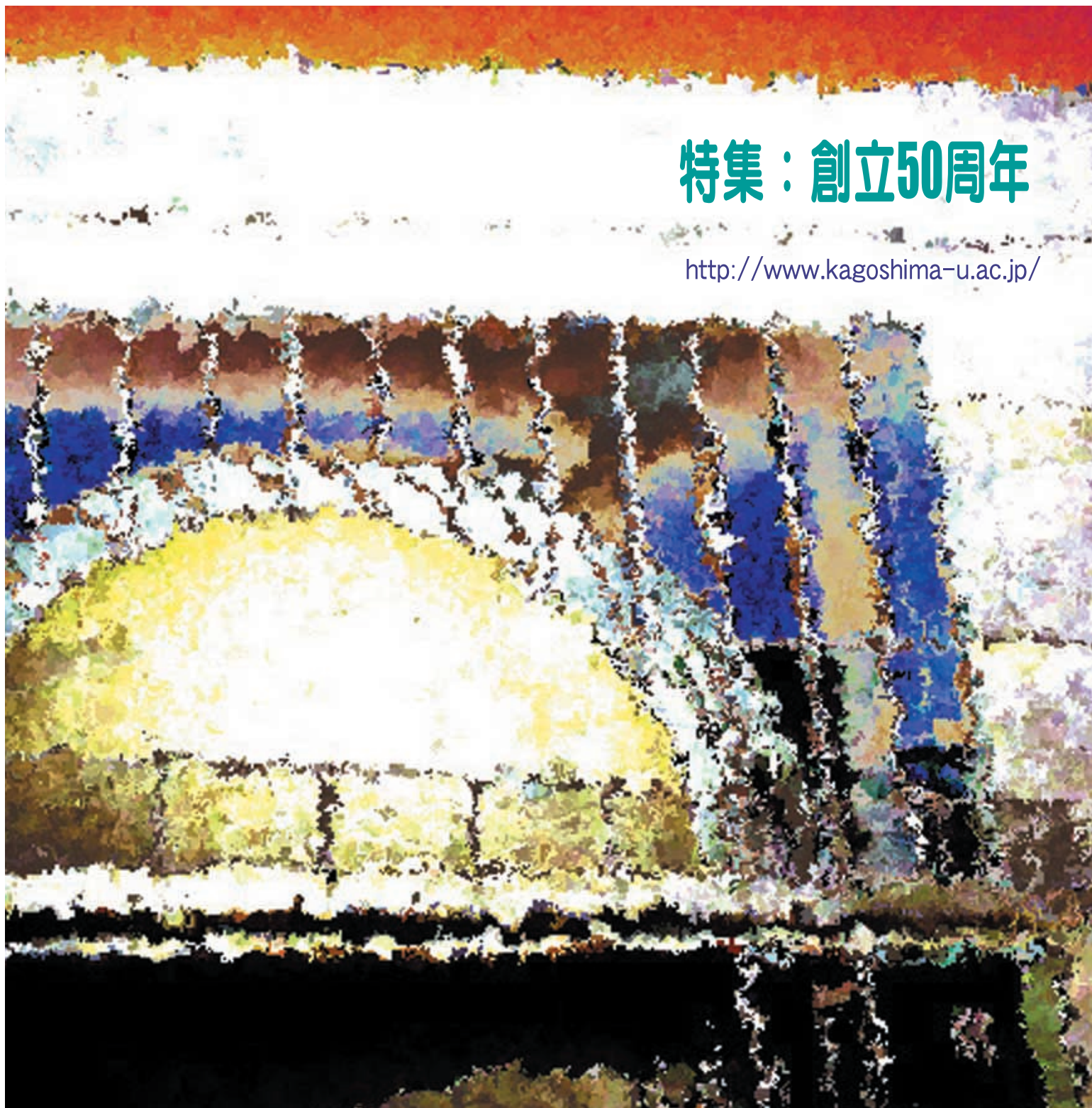
No.151

Sep/1999

編集・発行
鹿児島大学
広報委員会

特集：創立50周年

<http://www.kagoshima-u.ac.jp/>



思い出



昭和60年3月
鹿児島大学歯学部卒業
現：立石歯科医院・院長

鹿児島大学創立50周年を迎えるにあたり歯学部同窓会よりの祝辞を申し上げます。鹿児島大学歯学部は南九州、沖縄における歯科医療の中核としての役割を担うという観点から昭和52年10月に創設され、平成9年に創立20周年を迎えた鹿児島大学で最も若い学部です。昭和59年1期生の卒業と同時に創立された同窓会は今年で16年目を迎え、卒業生は千人を超すまでになりました。ここで、一同窓生として私なりの学生時代の思い出を話し、学部のプロフィールの一部でも紹介できたらと思います。私は昭和54年2期生として入学いたしました。当時定員80名で内女性は7名でした。教養時代の2年間は郡元のキャンパスで過ごし、平常は大いに遊び試験前になるとあわてて勉強したように記憶しております。他学部の学生と一緒に授業を受講でき相互の交流ができたことは、今となっては貴重で懐かしい思い出です。

さて、二年生の後期からは水曜日のみは、宇宿キャンパスにて歯学概論等の授業が始まりました。初めての専門的分野の授業に今までとは異なり、いささか緊張し受講したような思い出があります。

先だって歯学部を訪ねる機会があり、講義棟、学生控室など懐かしく見ておりました。私達が専門1年に上がった時（昭和56年）校舎は未だ、ピカピカしており、一期生と私達だけしか使用していないせいか生活の臭いがあまりなくコンクリート臭だけがやけに鼻をつき、雰囲気的に少し違和感を感じました。しかし、3年4年5年と進級するに従い現在の模様と変らない様に移行してきたと感じました。この場にたたずむと、昔の事柄がいろいろ思い出され気分は正に学生時代に返ったような気がしてくるようです。時には母校を訪ねる事も心に安らぎを与えてくれるような気がして良いものです。

さて私達を教えて下さった先生方には、名物教授と呼んで差しつかえない先生方も含め、多士済済で私達同様一からのスタートで歯学部を創り育てるという意気込みでは目を見張るものがあり、私達もそれ等に薫陶されました。先生方の思い出と当時の学部の心意気の一部がのぞけたらと思いエピソードを一つだけ上げさせていただきます。

歯学部同窓会長 立石 基 高

実名をあげて申し訳ございませんが口腔病理学をお教え下さった浦郷篤史名誉教授、授業開始開口一番「マラソンを走らないと試験を受ける資格がない。」口腔病理の単位を取る為には、まず第一の条件として教授の指定する日、指定するコース（ハーフマラソン）を走らねばならないということです。先生の持論として他人の健康を預かる者は健康でなければならない。尤もなことです。その日から私達は一期生先輩諸氏の勧めもあり、マラソンの練習に精出しました。放課後キャンパスを走る同級生、浦郷先生も当然走っておられました。そしてその日がやってまいりました。それは後期の授業の初日、折り返しまでは皆で一緒に走り帰りは自由に走ることにになりました。産業道路沿いの歩道を走ったのですが今でも車で走るたび懐かしく思えます。結果はと申しますと、全員無事に完走し単位取得の権利だけは全員得られました。その後授業があり、皆受講し帰宅いたしました。私が同窓会の仕事を引き受けるに当たり、浦郷先生から封書にて激励の言葉をいただき感激いたしました。この場をかりまして深く感謝の意を表したいと思います。

その他基礎系、臨床系含めて個性豊かな先生方と知り合うことができ本当に良かったと思っております。特に基礎系の科目につきましては習っている時には初心に戻るという大切さが実感としてわかなかったのですが、臨床をやっていくうちにこの大切さがひしひしと感じられてきました。もう少し勉強しておけば良かったと思いながら再度本を開けている今日此の頃です。とりとめもなく思い出を書き綴りましたが、今振り返ってみれば、良きにつけ悪しきにつけ充実した学生生活であったと思います。そしてその中で得た友人諸氏は私の一生の財産だと思っております。

創立50周年を期に歴史ある他学部と肩を並らべられるよう研鑽していこうと思っております。同窓会は過去と現在を結ぶ役割もあると思います。大学の改革も話題になっている現今何らかの形で母校に私達同窓会が協力できればと思っております。鹿児島大学の益々の御発展を祈念いたしまして、私の挨拶といたします。

かみたに じゅんざぶろう
上谷 順三郎 (教育・助教授・国語教育講座)
修士 (教育)



(生) 昭和37年2月2日
(学) 筑波大学第二学群人間学類
(前) 岩手大学教育学部助教授
(担) 国語A、国語科教育II、国語科教育演習、近代文学講読II、言語表現論、国語科教育学特論I (院)、国語科教育学特論演習I (院)
国語科教育学

「一年の半分は冬」の岩手から
「一年の半分は夏」の鹿児島へ。
この違いを楽しみにしながら、教育・研究に取り組みたいです。

おえ かずき
小江 和樹 (教育・助教授・美術教育講座)
修士 (教育)



(生) 昭和36年12月27日
(学) 大阪教育大学大学院教育学研究科修士課程
(前) 岐阜市立女子短期大学・講師
(担) 美術教育学

今後も教育・研究において、なお一層の努力を重ねていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

ゆうくら みき
有倉 巳幸 (教育・助教授・学校教育講座)
修士 (文)



(生) 昭和40年8月31日
(学) 広島大学大学院教育学研究科博士課程前期
(前) 鹿児島女子大学 (現学館大学) 文学部講師
(担) 入門心理学、教育心理学演習他

これまでに培ってきた知識を活かして、心理学の面白さを学生に伝えていけたらと思っています。どうぞよろしくお願いします。

やすい つとむ
安井 孜 (教育・教授・数学教育講座)
博士 (理)



(生) 昭和21年2月9日
(学) 広島大学大学院理学研究科修士課程
(前) 山形大学教育学部助教授
(担) 幾何学I～III、初等幾何学

北国・山形に25年間もいたせいか、暖かい鹿児島には開放感があります。20才位若返った気分の研究 (数学) を続けています。

さ さ ひろゆき
佐々 祐之 (教育・講師・数学教育講座)
修士 (教育)



(生) 昭和43年8月11日
(学) 広島大学大学院教育学研究科博士課程前期
(前) 広島大学附属福山中・高等学校教諭
(担) 数学教育

代数的な領域をベースとした教材論や創造性を培う数学教育に興味を持っています。今後ともよろしくお願いします。

たまつ ゆういち
田松 裕一 (歯・講師口腔解剖学2)
博士 (歯学)



(生) 昭和38年9月17日
(学) 岡山大学歯学部東京歯科大学大学院歯学研究科
(前) 東京歯科大学・講師
(担) 口腔解剖学、顎骨の生体力学

鹿児島大学の発展と知・心・技を高次で具えた歯科医師の育成を目指して、日々の研究と後進の教育に尽力していきたいと思っています。